

科目名	日本の社会と言語の多様性					
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照			
開講期	春学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	1 年次	単位数 2 単位
教員名	木島 雅夫					

授業概要／Course outline

日本の社会の現状や変遷を踏まえつつ、共通語・地域方言・社会方言・役割語などの日本語の位相についての基本的な知識や考え方を理解したうえで日本語の多様性について分析し、その過程や結果を説明できるようになることを目標とする。また、国内での日本語以外の言語の使用状況や社会的な位置付けなど日本の言語状況を社会的な側面から考察する。学期の前半は日本語の多様性について、後半は現代の日本社会の多様性とこれからの日本語のあり方を中心に授業を進める。主体的な思考力の養成、対話を通した学びを重視するため、授業の形式は、講義にグループワークを併せたものとする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

学んだのこの意見交換、発展的なタスクをグループで行い、発表を行う

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド授業は、moodleで行う。内容に関する質問はメールで受け付ける。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 授業の概要とアイスブレイク、イントロダクション

授業のスケジュールや授業内容を確認し、授業の進め方について説明する。その後「多様性」をキーワードにグループディスカッションを行う。

第2回 日本語の多様性①（地域方言①）

共通語と地域方言について解説する。その後、地域方言の使用とその効果について各グループでディスカッションし、発表準備を行う。

第3回 日本語の多様性②（地域方言②）

前回に引き続き共通語と地域方言について解説する。その後、地域方言の使用とその効果について各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

第4回 日本語の多様性③（社会方言①）

社会方言について概説した後、ジェンダー・世代・社会集団と言葉について解説する。その後、男性語・女性語・若者語について各グループでディスカッションし、発表準備を行う。

第5回 日本語の多様性④（社会方言②）

前回に引き続き、社会方言について概説した後、ジェンダー・世代・社会集団と言葉について解説する。その後、男性語・女性語・若者語について各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

第6回 日本語の多様性⑤（役割語①）

様々な役割語について解説した後、役割語使用の効果について各グループでディスカッションし、発表準備を行う。

第7回 日本語の多様性⑥（役割語②）

様々な役割語について解説した後、役割語使用の効果について各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

第8回 日本語の多様性⑦（相手・場面に合わせた表現）

待遇表現など、相手・場面・状況に合わせた表現について学習し、どの場面でどのような表現を用いるかについて話し合う。過剰敬語についても考える。

第9回 日本語の多様性⑧（書き言葉と話し言葉）

日本語の表記の多様性、書き言葉と話し言葉について解説する。その後、書き言葉と話し言葉の違いなどについて各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

第10回 日本社会の多様性と言語①（異文化との接触）

後半のテーマのウォーミングアップとして「異なり」について考える。異文化との接触、マイクロ・アグレッション、マジョリティとマイナリティ、異文化間ソーシャルスキルをキーワードに考えていく。

第11回 日本社会の多様性と言語②（多言語社会）

日本の多言語社会について概観し、外国人労働者等、定住外国人に関する現在の状況、政策について解説する。その後、多言語社会とは何か、私達には何が求められるかについて各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

第12回 日本社会の多様性と言語③（複言語主義教育）

日本のバイリンガル教育について学ぶ。その後、複数言語環境で成長する子供の言葉の学びについて、日本語教育の視点から各グループでディスカッションし、発表・振り返りを行う。

★オンデマンド 日本社会の多様性と言語④（多文化共生と「やさしい日本語」）

外国人と日本語で話すとき、どのように話すかなど日本語・日本語教育についてオンデマンドで基礎的な解説をした後、課題に取り組む。オンデマンド授業の動画（約45分）を6月30日までにmoodleにアップする。

第13回 日本社会の多様性と言語⑤（これからの日本語・日本社会）

これからの日本語・日本社会についての解説を行い、グループでディスカッションを行う。

第14回 振り返り及び質問

第2回から14回までの内容について質問を受け付ける。その後、要点の確認とまとめを行う。

事前・事後学修／Preparation and assignments

学習をしたうえで、クラスに積極的に参加するようにしてください。

- ・授業内での積極的な発言を望みます。「対話していきながらの授業」を目指します。
 - ・当科目は1回の授業について、少なくとも事前学修90分、事後学修90分必要です。
- 上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うようにしてください。

第1回 授業の概要とアイスブレイク、イントロダクション

〔事前学習〕「多様性」について意見を述べられるようにしておくこと

〔事後学習〕授業の内容を整理・復習し、授業の進め方を確認しておくこと

第2回 日本語の多様性①（地域方言①）

〔事前学習〕自分の使用する地域方言についてまとめておくこと

〔事後学習〕地域方言について整理・復習する

第3回 日本語の多様性②（地域方言②）

〔事前学習〕グループで話し合ったことをまとめておく

〔事後学習〕地域方言について整理・復習する。また発表の自己評価を行う

第4回 日本語の多様性③（社会方言①）

〔事前学習〕自分の使用する社会方言についてまとめておくこと

〔事後学習〕社会方言について整理・復習する

第5回 日本語の多様性④（社会方言②）

〔事前学習〕グループで話し合ったことをまとめておく

〔事後学習〕社会方言について整理・復習する。また発表の自己評価を行う

第6回 日本語の多様性⑤（役割語①）

〔事前学習〕自分の使用する役割語についてまとめておくこと

〔事後学習〕役割語について整理・復習する。

第7回 日本語の多様性⑥（役割語②）

〔事前学習〕グループで話し合ったことをまとめておく

〔事後学習〕役割語について整理・復習する。また、発表の自己評価を行う

第8回 日本語の多様性⑦（相手・場面に合わせた表現）

〔事前学習〕 第7回授業で提示した課題をやっておくこと

〔事後学習〕 相手・場面に合わせた表現について整理・復習する

第9回 日本語の多様性⑧（書き言葉と話し言葉）

〔事前学習〕 日本語の表記の特徴、話し言葉と書き言葉の相違点について内省しまとめておくこと

〔事後学習〕 表記と書き言葉について整理・復習する。

第10回 日本社会の多様性と言語①（異文化との接触）

〔事前学習〕 第1回で話し合った多様性について改めて振り返る

〔事後学習〕 異文化との接触について整理・復習する

第11回 日本社会の多様性と言語②（多言語社会）

〔事前学習〕 第10回の授業で提示した課題をやっておくこと

〔事後学習〕 多言語社会について整理・復習し、次回の小テストに備えておくこと

第12回 日本社会の多様性と言語③（複言語主義教育）

〔事前学習〕 第11回の授業で提示した課題をやっておくこと

〔事後学習〕 複言語主義について整理・復習する

★オンデマンド 日本社会の多様性と言語④（多文化共生と「やさしい日本語」）

〔事前学習〕 第12回の授業で提示した課題をやっておくこと

〔事後学習〕 オンデマンドの解説を視聴し、「やさしい日本語」についての課題研究を行う

第14回 日本社会の多様性と言語⑤（これからの日本語・日本社会）

〔事前学習〕 第13回の授業で提示した課題をやっておくこと

〔事後学習〕 授業の内容を整理・復習し、日々の生活で実践すること

第15回 振り返り及び質問

〔事前学習〕 授業全体のまとめ、復習をし、質問を考えておく

〔事後学習〕 全体の振り返りをおこなう。学んだことを日々の生活で実践する

授業の到達目標／Expected outcome

- ・ 日常的に使用している日本語を客観的に観察し分析することができる。
- ・ 日本語が有する多様性並びに日本語の様々な言語現象について理解し説明できるようになる。
- ・ 多文化共生時代の言語及び社会の課題について理解し主体的に考えられるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

専門知識・専門技能

【外国語学部 英語学科】

- ・ 言語知識
- ・ 異文化理解

【外国語学部 ヨーロッパ言語学科】

- ・ 言語知識
- ・ 異文化理解

【外国語学部 アジア言語学科】

- ・ 言語知識
- ・ 異文化理解

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・ 受講態度が目にと余ると教員が判断した場合は減点の対象とする。

評価方法／Evaluation

授業への参加の度合い 40%（グループワークの評価など）、小テスト 20%、定期試験 40%（授業期間外に行う）

※この授業では、解説及びディスカッションが授業内容の中心であるため、授業への参加の度合いが成績に反映する。

- ・ 出席回数が全講義の3分の2以上ない場合、評価は「／（出席日数不足）」とする。

・遅刻3回および早退3回は欠席1回分とみなす。

教 材／Text and materials

教科書：なし。プリントを配布する。

質問や相談の方法／Instructor contact

授業に関する質問や相談などがある場合は、授業終了後に質問するか、初回授業時に連絡するメールアドレスへ質問すること。